

製造業・業種別・経費・所得構成比 (所得部会資料 No.1-4)

一生産国民所得と産業連関表との対比 (昭和30年暦年)

経済企画庁経済研究所

	食料品		織 維		木材・木製品		パルプ・紙		出版・印刷		化 学		薬 業		鉄 鋼	
	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O
1 物的経費	61.2	72.0	73.4	76.8	68.2	70.1	67.0	68.5	45.9	47.3	60.8	64.5	48.8	45.4	74.5	81.5
2 資本減耗引当	1.1	0.9	1.8	2.0	1.1	0.8	2.9	3.2	1.4	5.4	3.6	3.5	3.3	3.5	3.2	2.1
3 コスト・サービス	7.2	3.5	4.0	4.5	9.8	4.8	8.0	6.2	9.8	13.3	8.6	10.5	12.7	10.9	6.7	3.9
4 間接税・税外負担 (補助金控除)	17.4	13.8	0.0	0.5	0.1	2.7	0.6	1.4	0.0	0.2	1.9	4.6	0.0	2.1	0.0	0.4
5 所 得	13.1	9.8	20.8	16.2	20.8	21.6	21.5	20.7	42.9	33.8	25.1	16.9	35.2	35.1	15.6	12.1
6 総支出額	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

	非 鉄		金 属		機 械		電 気		輸送・船舶		その他		計	
	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O	生・国	I・O
1 物的経費	75.4	70.9	62.1	57.9	55.5	60.0	53.3	57.5	70.7	65.1	62.5	65.8	64.7	69.7
2 資本減耗引当	2.2	2.3	1.1	1.1	2.3	2.7	2.4	0.3	2.6	0.4	1.2	0.9	2.2	1.8
3 コスト・サービス	6.1	5.4	8.2	4.0	11.6	4.4	8.6	5.4	9.7	4.4	9.8	4.3	7.6	5.3
4 間接税・税外負担 (補助金控除)	0.0	1.8	0.1	1.5	0.7	1.8	2.1	3.4	0.6	2.8	0.4	1.3	3.5	4.9
5 所 得	16.3	19.6	28.5	35.5	29.9	31.1	33.6	33.4	16.4	27.3	26.1	27.7	22.0	18.3
6 総支出額	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

— 製 造 業 —

生産国民所得と産業連関表との比較 (昭和30年)

(所得部会資料 No.1-10)

生産国民所得と産業連関との比較 (昭和30年)

表1 製造業・中分類 (生産額と生産所得)

(単位 100万円)

	生 産 額			所 得 額		
	生・国 (a)	I・D (b)	(b)/(a)	生・国 (a)	I・D (b)	(a)/(b)
製 造 業	7,020,896	9,488,721	135.1 ^{%)}	1,503,653	1,913,919	127.5 ^{%)}
1 食料品製造業	1,391,641	2,501,233	179.7	173,622	267,361	154.5
2 繊維工業	1,184,728	1,546,766	130.6	245,977	281,384	114.4
3 木材および木製品製造業	344,388	436,735	126.8	71,172	97,719	137.3
4 パルプ・紙および紙加工業	287,632	348,540	121.2	61,546	83,162	135.1
5 出版・印刷および関連工業	275,368	309,529	112.4	100,525	121,288	120.7
6 化学工業	883,335	922,492	104.4	220,598	188,259	85.3
7 窯業および土石製品製造業	233,126	232,681	99.8	81,969	89,670	109.4
8 鉄 鋼 業	645,327	1,100,816	170.6	100,687	155,777	154.7
9 非鉄金属製造業	281,548	256,006	90.9	45,853	55,903	121.9
10 金属製品製造業	220,228	212,220	96.4	62,705	77,597	123.8
11 機械製造業	380,636	451,362	118.6	113,315	152,381	134.5
12 電気機械器具製造業	252,301	239,199	94.8	84,640	80,702	95.3
13 輸送用機械器具製造業	247,670	353,675	95.6	61,577	98,016	137.9
14 船舶製造および修理業	122,173			9,524		
15 その他の製造業	270,795	577,467	213.2	70,625	164,720	233.2

表2 — 表1の基礎資料 —

(単位 100万円)

	生 産 国			I O		
	生産額(A)	所屬額(B)	所得率($\frac{B}{A}$)	生産額(A)	所得額(B)	所得率($\frac{B}{A}$)
1 食料品製造業	1,391,641	173,022	12.4%	2,501,233	267,361	10.7%
2 繊維工業	1,184,728	245,877	20.8	1,546,766	281,384	18.2
3 木材および木製品製造業	344,388	71,172	20.7	436,735	97,719	22.4
4 パルプ・紙および紙加工業	237,632	61,546	21.4	348,540	83,162	23.9
5 出版・印刷および関連産業	275,368	100,525	36.5	309,529	121,288	39.2
6 化学工業	883,335	200,598	25.0	922,492	188,239	20.4
7 窯業および土石製品製造業	233,126	81,969	35.2	232,681	89,670	38.5
8 鉄鋼業	645,327	100,627	15.6	1,100,816	155,777	14.2
9 非鉄金属製造業	281,548	45,853	16.3	256,006	55,903	21.8
10 金属製品製造業	220,228	62,703	28.5	212,220	77,597	36.6
11 機械製造業	380,636	113,315	29.8	451,362	152,381	33.8
12 電気機械器具製造業	252,301	84,640	33.5	239,199	80,702	33.7
13 輸送用機械器具製造業	247,670	61,577	24.9	353,675	98,016	27.7
14 船舶製造および修理業	122,173	7,524	7.8			
15 その他の製造業	270,795	70,625	26.1	577,467	164,720	28.5
製造業計	7,020,896	1,503,633	21.4	9,488,721	1,913,919	20.2

表3. 官公營・製造業の生産額の業種別按分

	国営公共企業体		(生産額)	(所得額)	公 營		(生産額)	(所得額)
	人	%	100万円	100万円	人	%	100万円	100万円
1 食料品製造業	28,583	(71.6)	169,423	13,118	492	(10.1)	556	122
2 繊維工業	725	(1.8)	4,269	330	1,000	(20.5)	1,129	247
3 木材および木製品製造業	438	(1.1)	2,603	202	591	(12.1)	666	146
4 パルプ・紙および紙加工品製造業	450	(1.1)	2,603	202	-	(-)	-	-
5 出版印刷および関連産業	8,442	(21.1)	49,928	3,866	618	(12.7)	699	153
6 化学工業	876	(2.2)	5,206	403	354	(7.3)	402	88
7 窯業および土石製品製造業	-	(-)	-	-	701	(14.4)	793	174
8 鉄鋼業	-	(-)	-	-	-	(-)	-	-
9 非鉄金属製造業	-	(-)	-	-	-	(-)	-	-
10 金属製品製造業	-	(-)	-	-	5	(0.1)	5	1
11 機械製造業	388	(1.0)	2,366	183	-	(-)	-	-
12 電気機械器具製造業	-	(-)	-	-	100	(2.1)	115	25
13 輸送用機械器具製造業	53	(0.1)	236	18	289	(5.9)	325	71
14 船舶製造および修理業	-	(-)	-	-	-	(-)	-	-
15 その他の製造業	-	(-)	-	-	723	(14.8)	814	178
製 造 業 計	39,955	(100.0)	236,624	18,322	4,873	(100.0)	5,504	1,205

表4 公営および国営・公共企業体の従業員数（昭和35年事業所統計調査）

産業分類	公 営	国営公共企業体	産業分類	公 営	国営公共企業体
製 造 業	4,873 ^人	39,955 ^人	下着製造業（和式を除く）	420 ^人	^人
食料品製造業	492		その他の衣服繊維製身のほわり品製造業（和式を含む）	141	
肉製品・乳製品製造業	47		その他の繊維製品製造業	1	
水産食料品製造業	46		木材・木製品製造業（家具を除く）	512	438
調味料製造業	6		製材下製品製造業	425	397
パン菓子製造業	112		木製容器製造業	60	
その他の食料品製造業	281		その他の木製品製造業	27	41
たばこ製造業		28,583	家具装備品製造業	79	
紙巻たばこ製造業		25,753	家具製造業	93	
きざみたばこ製造業		2,235	その他の家具装備品製造業	6	
葉たばこ処理業		595	パルプ・紙・紙加工品製造業		450
繊維工業（衣服・その他の繊維製品を除く）	173		紙製造業		450
紡績業・ねん糸製造業	32		出版、印刷、同関連産業	618	8,442
メリヤス製造業	73		出版業		1,112
繊維雑品製品業	68		印刷業（騰耳印刷業を除く）	584	7,330
衣服その他の繊維製品製造業	827	725	製本、印刷物加工業	34	
外衣製造業（和式を除く）	265	725	化学工業	220	876

産 業 分 類	公 司	国営,公営企業体	産 業 分 類	公 司	国営,公営企業体
	人	人		人	人
紙機工業製品製造業	13	91	電気計測器製造業	15	
有機工業製品製造業		705	輸送用機械器具製造業	262	
天然樹脂製品, 木材化学製品製造業	9		船舶製造, 修理業	262	
医薬品製造業	198		計量器, 測定器, 測量機械, 医療機械, 理化学機械, 光学機械, 時計製造業	27	53
石油製品, 石炭製品製造業	134		測量機械器具製造業		53
舗装材料製造業	134		医療機械器具問付部品製造業	27	
窯業, 土石製品製造業	701		その他の製造業	723	
ガラス製造業	31		かん具, スポーツ用具, 体育用具製造業	154	
建設用粘土製造業 (陶磁器製を除く)	8		被褥具, 被褥品, ボタン, 関連製品製造業 (貴金属 を除く)	238	
コンクリート, 石こう, 石灰製造業	957		他に分類されない製造業	331	
その他の窯業土石製品製造業	305				
金属製品製造業	5				
金属打抜, 被覆, 彫刻業 (ほうろくと鉄器を除く)	5				
機械製造業 (電気機械器具を除く)		388			
特殊産業用機械製造業 (金属加工機械を除く)		388			
電気機械器具製造業	100				
通信機械器具, 関連機械器具製造業	85				

昭和30歴年および35歴年の生産国民所得、産業別国民所得、I.O.の比較

(所得部会資料 No. 1-12)

(単位：100万円)

	30 歴 年			35 歴 年	
	生産国民所得	産業別国民所得	I · O	生産国民所得	産業別国民所得
農 業	1,068,241 (100.0)	1,179,250 (110.4)	1,146,698 (107.3)	1,140,363 (100.0)	1,283,842 (112.6)
林 業	264,531 (100.0)	148,276 (56.1)	264,531 (100.0)	354,964 (100.0)	227,067 (64.0)
水 産 業	108,683 (100.0)	180,285 (165.9)	101,141 (93.1)	152,606 (100.0)	267,663 (175.4)
第1次産業計	1,441,455 (100.0)	1,507,811 (104.6)	1,512,370 (104.9)	1,647,933 (100.0)	1,778,572 (107.9)
鉄 業	138,197 (100.0)	142,217 (102.9)	167,072 (120.9)	191,639 (100.0)	203,215 (106.0)
建 設 業	273,814 (100.0)	322,628 (117.8)	345,267 (126.1)	819,000 (100.0)	687,330 (83.9)
製 造 業	1,503,633 (100.0)	1,525,228 (101.4)	1,737,826 (115.6)	3,609,118 (100.0)	3,516,327 (97.4)
第2次産業計	1,915,644 (100.0)	1,990,073 (103.9)	2,250,165 (117.5)	4,619,757 (100.0)	4,407,372 (95.4)
卸小売業	1,028,175 (100.0)	1,077,302 (104.8)	1,031,991 (100.4)	2,235,401 (100.0)	1,950,769 (87.3)
金融不動産業	363,377 (100.0)	363,377 (100.0)		865,561 (100.0)	865,561 (100.0)
運輸通信公益事業	669,565 (100.0)	△ 13,728 (91.7)	598,071 (89.3)	1,302,936 (100.0)	1,141,958 (87.6)
サービス業その他	1,169,607 (100.0)	1,169,607 (100.0)	1,469,871 (125.2)	1,756,759 (100.0)	1,756,759 (100.0)
第3次産業計	3,230,724 (100.0)	3,224,014 (99.8)	3,094,933 (95.8)	6,160,657 (100.0)	5,715,047 (92.8)
小 計	4,587,823 (100.0)	4,721,898 (102.0)	4,857,468 (104.1)	12,428,347 (100.0)	11,900,991 (95.8)
海外からの純所得	△ 26,728 (100.0)	△ 26,728		△ 44,900 (100.0)	△ 44,900
合 計	4,561,095 (100.0)	6,695,170 (102.0)		12,383,447 (100.0)	11,856,091 (95.7)

134,075

527,356

(244)

産業別国民所得の修正

産業別国民所得について(分配国民所得よりの調整のうち)勤労所得は所得部会資料 No. 1-11 の通り修正し、法人所得についても勤労所得の30 歴年および35 歴年の新旧の計数の割合で修正した。

	30 歴年	旧	修正	$\frac{b}{a}$	旧	修正	修正産業別	35 歴年	旧	修正	$\frac{b'}{a'}$	旧	修正	修正産業別
	旧所得	勤労所得	勤労所得	c	法人所得	法人所得	国民所得	旧所得	勤労所得	勤労所得	c'	法人所得	法人所得	国民所得
	A	a	B		d	d C	$\frac{A-(a+d)}{B+(b+dc)}$	B	a'	B'		d'	d' c'	$\frac{B-(a'+d')}{B'+(b'+d'c')}$
農 業	1,179,250	34,912	34,912	100.0	0	0	1,179,250	1,283,842	40,185	40,185	100.0	0	0	1,283,842
林 業	148,246	56,967	56,967	100.0	496	496	148,246	227,067	90,760	90,760	100.0	0	0	227,067
水 産 業	180,285	76,237	76,237	100.0	9,922	9,922	180,285	267,663	117,440	117,440	100.0	9,509	9,509	267,663
第1次産業計	1,507,811	168,116	168,116	(100.0)	10,418	10,418	1,507,811	1,778,572	248,385	248,385	(100.0)	9,509	9,509	1,778,572
鉱 業	141,501	113,617	114,259	100.6	12,402	12,476	142,217	201,688	161,218	162,555	100.8	23,774	23,764	203,215
建 設 業	318,646	182,306	186,090	102.1	9,425	9,623	322,628	673,648	418,144	430,171	102.9	57,057	58,712	687,330
製 造 業	1,494,196	939,723	963,671	102.5	283,758	290,842	1,525,228	3,434,613	1,944,654	2,003,520	102.8	943,025	970,373	3,516,827
第2次産業計	1,954,343	1,235,646	1,264,020	(102.3)	305,585	312,941	1,990,073	4,309,949	2,528,016	2,596,246	(102.7)	1,023,856	1,053,049	4,404,372
卸 小 売 業	1,074,375	361,677	390,635	108.0	112,114	121,083	1,077,302	1,856,848	763,299	828,889	108.6	329,662	358,013	1,950,769
金融 不動産業	361,613	139,160	140,281	100.8	80,419	81,062	363,777	833,532	266,166	282,721	106.3	242,439	257,713	865,561
運輸通信 公共事業	611,308	505,228	507,418	100.4	57,545	57,775	613,728	1,134,807	817,420	823,373	100.7	171,171	172,369	1,141,958
サ - ビ ス 業	1,086,827	770,239	852,276	110.7	6,745	7,688	1,169,607	1,605,455	1,152,700	1,299,173	112.7	38,038	42,869	1,756,759
第3次産業計	3,099,123	1,776,304	1,890,610	(106.4)	257,023	267,608	3,224,014	5,430,642	2,999,585	3,234,336	(107.8)	781,310	870,964	5,715,047
小 計	6,561,277	3,180,066	3,322,746	(104.5)	573,026	590,967	6,721,898	11,519,163	5,775,986	6,078,967	(105.2)	1,814,675	1,893,522	11,900,991
海外からの純所得	△ 26,728						△ 26,728	△ 44,900						△ 44,900
合 計	6,534,549						6,695,170	11,474,263						11,856,091

35年産業連関表および同国民所得の推計方法、結果等の比較

(所得部会資料 No.2-1)

目 次

- | | |
|---|---------------------------------|
| 第1. 産業連関表と国民所得推計について (<i>Activity basis</i> と <i>Establishment basis</i>) | 3. 昭和24暦年林業所得の推計 |
| 第2. 産業連関表付加価値と国民所得との対比 | 4. 昭和25年度水産業所得の推計 |
| 第3. 勤労所得, 法人所得, 個人業主所得について | 5. 林業, 水産業, 生産・分配国民所得推計の時系列 |
| A 産業連関表(35年)における勤労所得と、分配国民所得の勤労所得との比較検討 | 6. 昭和35年産業連関表による林業関係付加価値表 |
| B 法人所得推計法とその問題点 | 7. 水産業付加価値の検討 |
| C 個人業主所得推計法とその問題点 | 8. 35年産業連関表の水産関係付加価値表 |
| 第4. 参考資料・附表, その他 | 9. 35年産業連関表の建設業付加価値額 |
| 1. 農業個人業主所得(35年度) | 10. 昭和35年製造業(民営)生産所得等推計過程 |
| 2. 農業雇用労賃(35年度) | 11. 運輸業付加価値の推計方法と問題点 |
| | 12. 昭和35年産業連関表におけるサービス業関係国内国民所得 |

第1. 産業連関表と国民所得推計について (*activity basis* と *Establishment basis*)

1. 両統計の対象

(1) 産業連関表は、自己修繕、自家輸送、造船加工等につき、なお厳密に *activity basis* を貫いているとはいえないがその他については、極力、*activity basis* とするよう努力をしている。しかし国民所得推計は、第一次産業を除き、概ね事業所ベースである。(第一次産業の場合、農業は、農家経済調査を主たる基礎統計としてはいるが、同調査は農業所得に再する限り、製造業における工業統計よりは、*activity basis* 的といえる。林業、水産業については、一層 *activity basis* 的といえ、前者の分県所得の推計は、民有林法人所得を除き、主として24年生産額を基礎とした毎年の延設推計生産額と所得率に負っており、水産業についてもこれとはほぼ同様に25年生産額を基礎)といえる。)このことは、直ちに両統計結果の妥当性を決定するものではないが、両者の対象に差異を生じ、その結果、推計データの喰違いの原因となる。

(2) このような対象又は概念の差による喰違いは、第一次産業については、上記の如く両統計が共に *activity basis* 的であるためにそれほど問題とならず、計数的喰違いは使用する基礎統計と、その加工上の差異によるものといつてよい。第三次産業についても、郵便貯金(産業連関では金融へ、国民所得では運輸・通信・公益業へ)、飲食店(産業連関ではサービスその他、国民所得では商業)、娯楽サービス(産業連関ではサー

(218)

ビス業その他へ、国民所得では一括して娯楽へ)、放送(産業連関ではサービス業その他へ、国民所得では運輸・通信・公益へ)等について分類上差異はあるが、基礎資料は共に事業所ベースの統計であるので、分類転換を行えばデータに基本的な差異を生ずる大きな問題はない。最も大きな問題を有すると思われるのは第二次産業であつて、特に建設業の各パートの大きい製造業について、産業連関表が *activity basis* でこれらに努力をかけるようとするに對し、国民所得推計では、事業所ベースでこれを一括して製造業に計上しており、この結果両者の差は尙ほ開くことが考えられる。一方、産業連関表についても、上の場合これを明確に区別することは実際上多くの困難があり、調査省で行なう製造業の推計と、建設省で行なう建設業との調整が必要とされよう。

2. *activity basis* による産業連関表の問題 (特に自家生産物を原料とする企業についての例)

産業連関表の作成に當つては、*activity basis* により、物産の生産と消費について相互に把握をしようとしているが、現実には、基礎統計の制約、企業における会計慣習のために無理を行わねばならない場合が生ずる。ここでは自家生産物を原料とする業態に例をとつてみる。

(1) 例

	原材料費		人件費	利潤	計
	自家生産	購入			
鉄鉄部門	0	400	300	(300)	(1000) 700
鋼材 "	(1000) 700	1000	1000	1000	(4,000) 3,700

注) ()内は、原料部門たる鉄鉄部門で利潤を含まれた場合。

② 付加価値の計算

ア. 国民所得推計

損益計算により、売上げ三生産方式で算定するから
生産額 - 物的経費 = 3,700 - 1,400 = 2,300

イ. 産業連関表

ア) 正しい場合

$$\begin{aligned}
 C.T & 700 + 3,700 = 4,400 \\
 鉄鉄 & 700 - 400 = 300 \\
 鋼材 & 3,700 - 1,700 = 2,000 \\
 合計 & 4,400 - 2,100 = 2,300
 \end{aligned}$$

イ) 現実によくありがちな場合

企業に於ては、自家製品を自家原料とする場合原料部門の計算に当つて独立に利潤を加算しないのが常であるが、C、Tの計算に当つては、自家製品を販売価格(利潤を含む)で評価しなくてはならない。その為、次の様と計算する。

$$\begin{aligned}
 鉄鉄 & 1,000 - 400 = 600 \\
 鋼材 & 4,000 - 2,000 = 2,000
 \end{aligned}$$

$$合計 5,000 - 2,400 = 2,600$$

③ 付加価値の計算だけを行う場合は、損益計算方式で行なう国民所得推計の方が、activity basis で物質の生産・消費を trace する産業連関表より手間が省けることは当然である。

一方、C・Tの計算に当つて、各製品ごとの数量を把握し、これに単価を乗じて算定する activity basis の方が、単価さえ正確に把握できれば、損益計算方式で低額に計上されがちな生産額(売上げ+在庫増)よりは確實な方式と思われる。

しかし、自家生産原料部門の製品価額の評価は、大企業を別として、概ね正確には行なわれていないのが通弊であり、このため、産業連関表作成における自家生産原料の評価に当つては、事業所ベースである工業統計等より売上げ価額(利潤を含む)を数量に乗ずるという方法がとられがちである。この為、算定された付加価値は、通常、企業においては算定されない自家生産原料の利潤部分が加算され、それだけ国民所得推計に比して大と見られがちである。